大阪フロイデニュース
Freude
vol.6-22-② 2015.2.18.wed

2/11メモ号ナリ

大阪フロイデ合唱団　Tel 06-6358-2626
〒530-0041 大阪市北区天神橋2-1-18-4B
ホームページ http://www.osakafreude.com
メールアドレス info@osakafreude.com

実は、2/18号ニュースはモロモロお知らせメインで前もって作っていた内容（2/22(日)に解説の予定）で先に刷っちゃったんだけど…

2/11の練習メモしとかんと…と思って「ニュースその2」をつくってしもたがな…ppo

11日、「カラダの筋肉をすみずみまで使ったあ！」と感じたよねー。1回1回、がまん強く、カラダがゆるんでるのを注意して下さり、励まし、いろんな方向からアドバイスがありました。MハイドンのRequiemとDies iraeは、みんなすーごい書きこみでいっぱいのはず？
この練習を活かさないと？せっかく11日に曲をかにうたえてたのが、また「黙れ！」になっちゃうぞ？
ひとりひとり自覚して行こうぜ。でないとモッタイナイ!!

by.ゆ.

ほら、
またゆるんでる〜
なんで1回1回
ゆるむかなあ!?

2/11 由也先生のレッスンメモ

1) 立ち姿…かっこよく！かしこく！エレガントに！カラダゆるめない？

他パートがやってるとき、カラダゆるめるのナシ！なんで イチイチ ゆるめはるんかなあて

2)「自分で練習してる？」してます！「こんなのでは、自分で練習してるとは言わないっ！」

の意味、ちゃんとわかってまっかあて 自習もダラダラ無目的にやってませんかて
ゆるんだ声で狂った音で何度繰り返し自習しても意味無いでっせよ！ちゃんとカラダを準備して
目的意識を持って、音なのかコトバなのか、目指すところを持って集中して自習しないともったいないぞ？

3) ピアノの音聴いてよ！

歌う前に、ちゃんと真壁先生が出だしの音弾いてくれてるのに、なんで、その音ねらって出さへんの？なんで、そんなに
不用意に声出しはるかなあて 楽譜見て何の音かわかっても、正しい音程出されへんやん！ピアノの音を
よく聴いて、集中して自分の音つかんでねらわないと無理よ。 ほーら、やったらできはるやん！

4) 声のイメージを持って。

ソプラノは天使のところ、とか、アルトは「オバハンちゃうで。若々しく」とか。あと、バスは「重量級」のところとそうでは
ないところとあったよね。通奏低音的に音楽を支えるところは重量級でいきたいし、Amenフーガの
ところは、旋律の動きが見えるようにしたいから重量級じゃない方がいいね、ってことだよね。楽譜に書いたて

5) フレーズの終わりは「みんな集まろう」の気持ち。

たとえば、P.3 23小節目のluceat eis は、音の長さをあわせる、という以前に「集まろう」の気持ち。

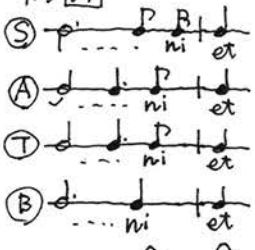
6) コトバを感じてよ。コトバが見えるようにうたってよ、コトバの気持ちを発音しようよ。

テクニックというより気持ち、Kyrieのフーガのところは「Kyrie」が出てきたら見えないと！それに発音も、
亀#先生に教えていただいていることを、各コトバで、自然に口が動くように身につけないとヘン。例えば、
eleison の「n」は「O」の口を変えずに舌が上あごにつくだけ。でも「n」や！と思って変えるからおかしいねん。
Vocame の「V」は「上歯を下唇にあてる」んだけど、それ以上に「B」よりも「V」は丁寧に発音する、と覚えておこう。

7) 音楽の中で自分のパートの役割を感じてうたおう

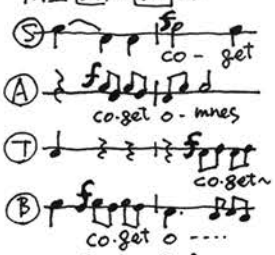
特に、次々に各パートが現われるところとか「見えるように」うたって！最初の「Requiem」はモチロン。

P.5 37



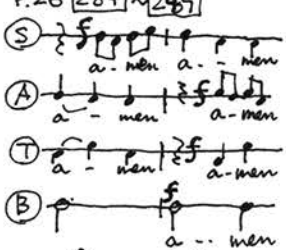
この、パートごとの「ni」が見える。 「et」で集まる

P.12 31〜32〜



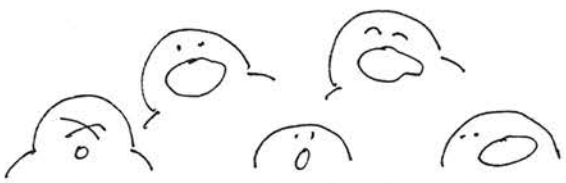
この、パートごとの「f」の位置のずれが見えたい。

P.26 284〜285



この、パートごとの「f」の位置のずれが見えたい。

モチロン、
P.6〜9の
Kyrieは
自分のパートにKyrieが
来たとき、ちゃんとそれが
見えるように？
でっせヨ！
そしてモチ、他の場面も同様



集中!! 不用意に出さない!!

8)「fは解放」「Pは緊張」…各自、楽譜のfとPがすぐ目に入るようにシルシつけてる？つけてよ！

フォルテは強く、ピアノは弱く、じゃないねん。特にPは決して弱くじゃないよ。オヘソの下からしっかり支えて集中して緊張感のある響き。みんなは声を出すのをサボってるだけ。全然違。Pの方がしっかり息を使うし、カラダも支えも全部使わないと出せない響き！

9) 他パートのとき、アタマとカラダを休憩してない！アタマ使って！

例えば、LacrimosaのAmenフーガのところの練習で、ソプラノ→アルト→テノール→バスの順に練習しましたが、すぐ「マルカート」の練習をソプラノ→アルトとやってきたのに、テノールのところで「メリハリのない ダラダラうたい」になっちゃいましたよね。それ、不注意！
それぞれの場面で、どんな音楽が要求されているか、マルカートなのかレガートなのか、他パートの練習のときこと感じて、自分のパートの順番がまわってきたら、バッチリ要求に応える！
っていうことでないとアカンやん。
それにオウ！ またカラダゆるんでるで！！

10) ディクションをたくさんしました！（言葉、言えてます!?）

（diction（仏）語文の朗読法。俳優のせりふ回し。特に音楽で、歌曲などの詞の発音のしかた。）
つまり、コトバのリズム読みでしたね。Dies iraeの[12]〜[25] [90]〜[119]とか、やりましたねえ。
由也先生が、テンポを手で叩いて下さって、一緒にリズム読みしてコトバを言いましたね。各パートのリズムのずれも明確になりましたよね。コツは、「ゆるんだ声でしないこと。ちょと高めのキーで、口ほらず、しっかり発音すること」これ、各自の自習でも応用できるよね。

11) この曲はひとことで言って「祈り」です。

宗教とか関係ない。浄土宗でもなんでもよろしやん。とにかく、ひとりひとりがどれだけ「祈り」の気持ちを込められるか、です。
そして、その「祈り」の気持ちが伝わらんとダメ。べたな汚い声で「これご利益ありそうねん」て言っても、そうは思わないやん。ご利益ある声で言わないと。

12) Amenに祈りを込めて。

声をぶつけない、とかテクニックの話じゃなくて、ひとりひとりがどんなことでもいいから、AmenのAに祈りを込めるっていうこと。そうすれば、Aの息の圧力とか変わってくるはず。ほら、やったら全然違うで!!

13) こんなことも…

Dies iraeの最後の最後（[290]小節目）Adagioと書いてありますが、これは、ただただゆっくり、というだけでなく「注意深く歩む」という意味があるんです。一歩一歩、足の置き場を慎重に見定めながら歩く。そのイメージで一音一音うたってよ。最後の「men」は明るいファンファーレのようなイメージかな。
それから、Adagioでテンポが変わるから、拍も変わる可能性があるので要注意。前の小節まで、1小節3つ拍だったのが、ここでは♪を1拍として6つ拍りかも。テヌートは音が動くので、特に注意!!

練習後に出た質問にこたえまの～

① 「亀井先生から『ここは黙っとけ！消えろ！』と言われたところ、今日はたっぷりうたっちゃいましたけど、どうしましょうで」

⇨ えっと…亀井先生がおっしゃったのは、「ヘンなうちい邪魔するような声、音程、響きは要らないから黙っとけ」ってことでするヨ。

11日の練習では、由也先生が1回1回「カラダゆるんだ声出すな！ほら！ちゃんとやったらできるやんか」と、めっちゃ親切に全部注意して励ましてくれはりました。だから亀井先生から「黙れ」と言われたところも邪魔な声ではなくうたえたと思います。

これがさあ、ふたんみんなゆるむからアカン！

由也先生の「忍耐強く励まし続けてくれる練習」で1回1回ゆるむ人も毎回直してできたこと。実は、いつも自分でやらないとアカンわけで…。これが亀井先生の練習でカラダが怯えたりゆるんだりしたら、当然「黙れ！黙る約束やろ！」って言われちゃって、由也先生の練習も台無し。みんな責任重大だよっ！

---

② Dies iraeの最初のところ、11日は母音をたっぷり響かせて練習しましたが、「亀井先生から、しおきりマルカートで、と言われていたと思います。どうしましょうで」

⇨ これも、亀先生は違うことをおっしゃっているのではありません。マルカートも1つ1つをブツ切れにしたり響きを殺してしまうことではありません。マルカートのテクニックとして、1音1音の間にスキマをアケルとか、AmenのAに軽くんを入れてもよい、などの手法はありますが、それはテクニック。それ以前に大事なことは、まず、歌えるようになろう。全部響きのある声でうたった上で、意識として1音1音の動きが見えるようにうたおう！と思うこと。（由也先生のレッスンでも、母音をたっぷり響かせることは、メリハリなくダラダラうたえってことではなかったでしょ！）響かせもせずに、目的意識もなく、ただ1個1個ではっても音楽では無いでする。

11日の練習でわかったように、ワタシタチ、全部カラダがゆるんでたし、全然響く発声が出ていませんでした。マルカートのテクニックどころの話じゃなく、まずは声出さないと！って場面。それで由也先生はちゃんとまずは響かせて！っていう練習をして下さったんでするよ！

亀井先生は音楽づくりの全体（オケストラも含め）をまとめて行われます。その音楽づくりに向けて、みんながちゃんと音楽の一員になれるようにするためのいろんなアプローチ、由也先生は声楽家の全部の経験を伝授して下さいました。忍耐強く、練習方法まで含めて！団員ひとりひとりがアタマ使って、教えていただいたことを実行していこうね？